

2010年3月期 中間決算説明会質疑応答



日 時：平成 21 年 11 月 6 日（金） 10：00～11：00

場 所：兜町平和ビル 2階会議室（社団法人日本証券アナリスト協会主催）

質疑応答要旨

質 問	回 答
Q. AS-013 のライセンスアウトについての契約一時金の額はどの程度でしょうか？	A. 具体的な金額は非開示とさせていただきますが、今中間期の創薬事業の売上高の主要な要因であるということをご理解ください。また、その後見込まれるランニングロイヤリティは、当社の将来の大きな収益源になっていくものと考えております。
Q. AS-013 の中国における臨床試験の開始時期と対象となる疾患をお聞かせください。	A. どの適応症でいつ頃試験を実施するかについては現在検討中につき未定となっております。
Q. 中国以外に日本や韓国といったアジア圏でのライセンス活動を行っているとのことでしたが、現状はいかがでしょうか？	A. 現在も継続して活動を行っており、CDAを締結の上、検討を行っている企業がございます。
Q. 今後、欧米での研究を再開することは考えていますか？	A. 可能性はありますが、今現在はまだそうした環境ではないと考えております。今後日中韓を中心にアジア圏で共同治験を行い、そこで得られたデータをもって欧米にアプローチする戦略を考えております。
Q. G-C S F 製剤について、PEG化を用いたものが多いと聞きますが、それらに対するSRGの優位性はこういった点でしょうか？	A. 大きく2点の優位性があります。まず、PEG化を用いると最大1/10程度まで活性(薬剤の効果)が落ちてしまいますが、当社の技術は活性に一切影響を与えません。次に、PEG化によらず亜鉛に沈殿させるという製造方法から生産コストを従来 of 半分程度に抑えることが可能です。効果の高い薬を安価で提供するができれば十分なニーズがあるものと考えております。